

中山間地域医療機関等連携強化推進事業

1 事業目的

中山間地域等における、医療従事者及び地域住民双方の負担軽減を図り、地域の医療提供体制を維持するため、オンライン健康医療相談などを行うモデル事業を令和3年度から令和5年度まで3年間実施。

2 事業概要

へき地医療拠点病院である西伊豆健育会病院に委託し、無医地区（大沢里）の巡回診療患者、町内外の訪問診療患者、病院の外来診療患者を対象として、オンライン健康医療相談を実施し、参加者にアンケート調査を行った。

巡回診療患者	外来診療患者	補足
		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末にスピーカーを接続して実施 ・端末のカメラを用いて傷口等のフォロー ・状態に応じて外来診察の予約調整

3 実施状況

令和6年1月31日時点

実施期間	巡回診療	訪問診療	外来診療
R3.11.9 ～R4.1.25	14名 70代3名、80代8名 90代2名、100代1名	5名 80代2名 90代3名	—
R5.1.10 ～R5.2.24	16名 70代4名、80代6名 90代5名、100代1名	—	6名 70代3名、80代1名 90代2名
R6.1.11 ～実施中	—	1名 80代1名	4名 40代1名、60代1名 70代1名
合計	30名 70代7名、80代14名 90代7名、100代2名	5名 80代3名 90代3名	9名 40代1名、60代1名 70代4名、80代1名 90代2名

4 アンケート結果（令和6年1月末時点）

(1) 本事業の患者満足度

	満足	概ね満足	やや不満	不満	満足・概ね満足の割合
巡回	20	7	0	3	90%
訪問	4	1	0	0	100%
外来	3	3	0	0	100%
合計	27	11	0	3	93%

(2) どの診療方法が良いか

	対面診療	オンライン診療	どちらでも良い	オンライン診療・どちらでも良いの割合
巡回	18	1	11	40%
訪問	3	0	2	40%
外来	3	0	3	50%
合計	24	1	16	41%

5 メリットと課題

(1) 巡回診療

病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減（移動時間を院内業務に充てられる。） ○ 他職種連携による医療の質向上（理学療法士等が診療に参加できる。） × 他職種連携では他職種の負担増（参加職員の業務が滞る。）
患者	<ul style="list-style-type: none"> × 顔を直接診てもらいたい、直接話したいと考えている患者がいる × 患者の負担軽減にはつながらない（診療場所までの移動は同じ。） △ 医師の負担軽減に一定の理解を示す患者もいる （薬がもらえれば良い、先生の負担も少なくなりそうで良い。）

(2) 訪問診療

病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減（移動時間を院内業務に充てられる。） ○ 他職種連携による医療の質向上（理学療法士等が診療に参加できる。）
患者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者家族やケアマネージャーの参加、情報共有 △ 患者本人への影響は不明（アンケートには患者家族が回答しており、患者本人の意向は不明。自由回答も記載なし。）

(3) 外来診療

病院	<ul style="list-style-type: none"> × 医師の負担軽減にはつながらない × 機器操作等を行う補助者が必要（看護師や事務職員） ○ 生活環境の確認による医療の質向上
患者	<ul style="list-style-type: none"> × 直接診てもらいたい、対面が一番安心と考えている患者がいる ○ 患者の通院負担軽減（状態に応じて通院時期を調整できる。） （わざわざ病院に行かなくても良いのは楽、大雨の時に良い。）

6 現時点でのモデル事業総括

へき地の住民にとって、かかりつけ医のオンライン診療を受けられる体制の確保は、以下の理由から重要である。

- ・ 本人や家族の高齢化による通院負担の軽減
- ・ 訪問診療時の患者家族やケアマネージャーとの情報共有
- ・ へき地の医療機関の将来動向への備え
- ・ 道路寸断など緊急時の対応

また、医療機関の視点では、オンライン診療実施についての患者満足度は高く、使用する通信機器の整備も現状の補助制度内で実施できることを検証できた。

7 今後の展望

オンライン診療は対面診療よりも診療報酬が低く、通信料や患者宅で活動する看護師等の人件費が補助の対象外であるため、医療機関にとって経済的な負担が増すことから、国による制度対応を求める。

へき地の医療機関の将来動向については、来年度調査を実施する。

オンライン診療に必要な機器の整備については、引き続き補助を継続する。

令和5年度実施のモデル事業により、外来診療と訪問診療におけるオンライン診療の検証をさらに進める。